



楽しんだ満足と同じだけの感謝をフィールドに返したい。

ゲームフィッシングだからこそ、そのスピリットも忘れない。

ゲームの終わりはいつも持ち帰ること。素敵な人の心はいつも変わりません。

株式会社シマノ 本社:〒590-8577 大阪府堺市老松町3丁77番地

商品の性能、スペック、カタログ、イベントなどに関するお問い合わせ

フリーダイヤル 0120-861130
ハロー イイサオ

受付時間AM9:00-12:00、PM1:00-5:00(土、日、祝祭日は除く)

シマノ ホームページ アドレスは、<http://www.shimano.co.jp>
シマノならではのオリジナル情報を発信しています。
また、新しくカタログのお申し込みの受付も開始致しました。
(総合カタログは除く)

01S-13] フィッシングスクールテキスト

SHIMANO BASS FISHING TEXT BOOK

はじめてのバスを 手にする方法

It's Wonderful Fishing
SHIMANO

「最近、あなたは感動したことがありますか？」

こう質問されたら、皆さんはどう答えるでしょうか？

“うーん”と考え込む人、「最近はないなあ」と答える人…

様々なお答えがあるとは思いますが、

明確に「あります。」と答えられる人は少ないのではないのでしょうか？

日常生活の中では、なかなか得ることができなくなった「感動」。

この「感動」がバスフィッシングの世界にはいっぱい詰まっているのです。

釣り場へ出かける前にワクワクし、ルアーにバスが飛びついたときに驚き、

バスがかかったときにドキドキする…自然の中で行うバスフィッシングだからこそ、

そこには普段の生活では味わえない、新鮮な「感動」がたくさんあります。

今、あなたがバスフィッシングを始めてみようと思った瞬間、

その「感動」を手に入れる扉は開かれたのです。

そして、はじめて手にする一匹のバスが、

あなたに、これまでに感じたことのない程の、

手足が震えるような「感動」をプレゼントしてくれることでしょう。

まずはバスフィッシングに使う道具を知っておこう。

バスフィッシングに使う道具のことを総称して「タックル」と呼びます。

バスフィッシングでは、糸を巻く道具を「リール」、竿を「ロッド」、糸を「ライン」、おもりを「シンカー」と呼びます。

ベイトタックルとスピニングタックル

バスフィッシングに使うタックルには、「ベイトタックル」と「スピニングタックル」があり、目的に合わせて使い分けられています。

■ベイトタックル

ベイトロッドにベイトリールを組み合わせたものが「ベイトタックル」。比較的重めのルアーをキャストするときに使用します。ロッドに「トリガー」と呼ばれる指を引かける部分がついているのが特徴。リールは上向きにセットします。



■スピニングタックル

スピニングロッドにスピニングリールを組み合わせたものが「スピニングタックル」。比較的軽めのルアーをキャストするときに使用します。ロッドのガイド(ラインを通す丸い穴)がベイトロッドよりも大きいのが特徴です。リールは下向きにセットします。



ルアーやライン、シンカーなどもタックルと呼ばれる。

ロッドやリールの以外の道具もタックルと呼ばれます。ルアーやライン、シンカーなどがそうです。

■ルアー

ルアーは大きく分けて、プラグなどの「ハードルアー」とワームなどの「ソフトルアー」に分けられます。



■ライン

バスフィッシング専用のものがあり、太さによって分かれています。バス専用のは「ポンド (lb.)」で表記されていますが、通常は「号」で表記されています。



■フック

フックとは針のこと。プラグについているものの他に「ワーム」と組み合わせて使うものがあります。



■シンカー

シンカーは主に「ワーム」と組み合わせて使用されます。



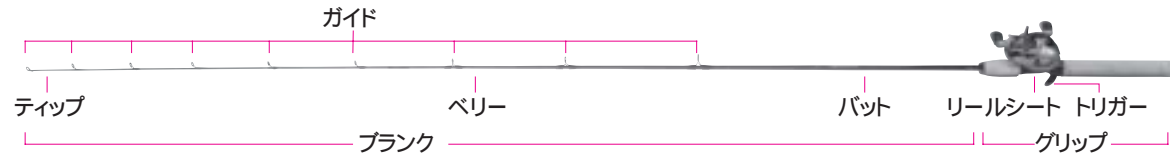
バスフィッシング専用ロッドを使いましょう。

ロッドには“ベイトロッド”と“スピニングロッド”があり、バスフィッシング専用設計されています。長さはインチ/フィートで示されます。

ロッドの種類と各部の名称

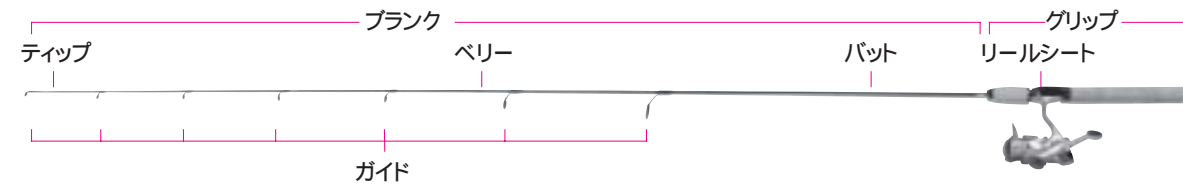
■ベイトロッド

ベイトリールをセットして使います。リールをロッドの上側にセットして、ガイドが上になるようにして使います。



■スピニングロッド

スピニングリールをセットして使います。リールをロッドの下側にセットして、ガイドが下になるようにして使います。



- ガイド**……ラインを通すためのリング。先端のガイドをトップガイドという。
- ブランク**……ロッドの本体。カーボン100%とかというのは、この部分の素材のこと。
- ティップ**……ブランクの先端あたりのこと。先径はこの部分の直径。
- ベリー**……ブランクの真ん中あたりのこと。胴とも言ふ。
- バット**……ブランクの根本あたりのこと。元径はこの部分の直径。
- リールシート**……リールを取り付けるところ。
- グリップ**……シングルやダブルなど、ロッドの長さや種類によって色々なタイプがある。

ロッドのタイプ

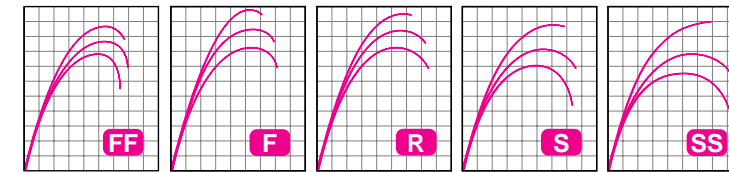
ロッドは収納形態によって、いくつかのタイプに分けることができます。

- 1ピースロッド**……ブランクに継ぎ目がなく、分割ができないもの。アクションが良く、強度も強い。
- 2ピースロッド**……2ピースロッドとは2本継ぎのロッドのこと。2分割することができるので車のトランクにも収まる。電車やバスを利用するときにも安全で便利。
- バックロッド**……継ぎ数が多くコンパクトになる。リュックサックにも収まるので、電車やバスはもちろんのこと、特に自転車・バイクでの釣行には非常に安全。旅行にも手軽に持って行くことができる。

ロッドのテーパー

ロッドの“テーパー”とは曲がり具合のこと。“アクション”とも言います。色々な曲がり具合があり、ルアーや使用用途などに合わせて使い分けれます。

- FF(エクストラファースト・テーパー)**……ロッド先端のティップが非常に柔らかく、食い込みが良い。特にワームを使った釣りに適している。
- F(ファースト・テーパー)**……ロッド先端のティップが良く曲がり、感度とフッキング性能に優れている。特にボトム(底)での釣りに適している。
- R(レギュラー・テーパー)**……汎用性に優れている。初心者の方でも使いやすい。ワームやプラグなど、使用できるルアーの幅も広い。
- S(スロー・テーパー)**……ロッドの真ん中あたりのベリーから曲がる。キャストがしやすく、プラグを使った釣りに適している。
- SS(スーパースロー・テーパー)**……よりしなやかなスローテーパー。特に柔らかいものはトップウォーターの釣りに適している。



ロッドのパワー

ロッドのパワーとは硬さのこと。硬いものほど重たいルアーをキャストすることができ、使えるラインも太くなります。“ライト”とか“ミディアム”とかと呼ばれますが、シマノのロッドでは数字で表記されています。数字が大きいくほどロッドは硬くなります。

- 0<ウルトラライト>** ■**1<ミディアムライト>** ■**2<ミディアム>**
- 3<ミディアムヘビー>** ■**4<ヘビー>** ■**5<エクストラヘビー>**

シマノのロッド記号の読み方

シマノのロッドはロッド記号を読み、ひとめでロッドの特性が解るようになっています。是非ともその読み方を覚えておきましょう。

2602-1

ロッドの種類
1=ベイト 2=スピニング

全長(フィート)
前がフィート、後ろがインチを表します。
後ろの数字が5の場合のみ0.5フィート=6インチを意味します。

パワー表示 0-5
(数字が大きくなるほど硬くなります)

継ぎ数 1または表記のない場合は1ピースロッド
2=2ピースロッド
P=振出式バックロッド

【長さ】
1インチ(in)は、約2.54cm
1フィート(ft)は、約30.5cm 1フィート=12インチ

in	1	2	3	4	5
cm	2.5	5.1	7.6	10.2	12.7
in	6	7	8	9	10
cm	15.2	17.8	20.3	22.9	25.4

ft	1	2	3	4	5
m	0.3	0.6	0.9	1.2	1.5
ft	6	7	8	9	10
m	1.8	2.1	2.4	2.7	3.0

換算したすべての数値は、おおよその値です。

バスロッドにはなぜたくさんの種類があるのか？

ショップにいくとズラリと並ぶバスロッド。カタログを見ても、たくさんのバス専用ロッドが載っています。バスを釣るためだけに、どうしてあんなにたくさんのロッドがあるのだろうか？と不思議に思う人も多いはず…。もちろん、それには理由があります。バスフィッシングではたくさんのルアーを使用します。その中には重いルアーもあれば、軽いルアーもあります。重いルアーがキャストできる硬いロッドで、軽いルアーをキャストすると飛ばなかったり、逆に軽いルアーが良く飛び柔らかいロッドで、重いルアーをキャストすると飛ばなかったりします。そのようなことを解決するためにルアーの重さに合わせたロッドが用意されているのです。また、より多くのバスを釣るためには、ルアーの使い方に合わせた専用のアクションを持ったロッドが必要にもなってきます。当然、フィールド(釣り場)によっても必要なロッドは変わってきます。さらにロッドを使うアングラー(釣り人)も、ひとりひとり違います。性別はもちろん、身長などの体格、腕力も人によって変わってきます。そんなアングラーのひとりひとりが、ルアーやフィールドに合わせてロッドが選択できるように考えていくと、自ずとたくさんの種類のロッドが必要となってくるのです。

バスフィッシングに使うリールのことを知っておこう。

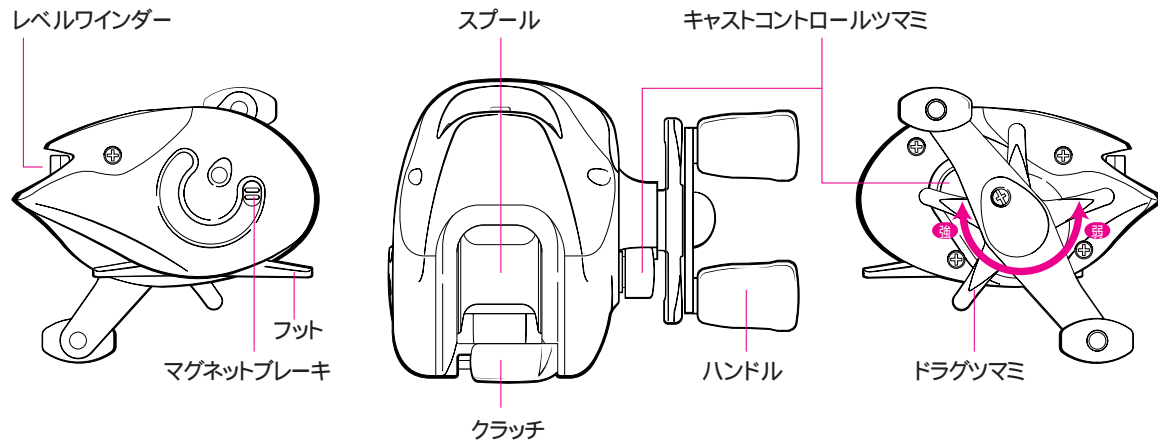
バスフィッシングに主に使われるリールは“ベイトリール”と“スピニングリール”。この2つは使用するルアーの重さなどによって使い分けられます。

リールの種類と各部の名称

■ベイトリール

巻き取る力が強く、主に重いルアー、太いラインを使用するときに使います。遠心カブレーキとマグネットブレーキがあり、マグネットブレーキは比較的簡単にキャストすることができます。

〈バスサイズの場合〉

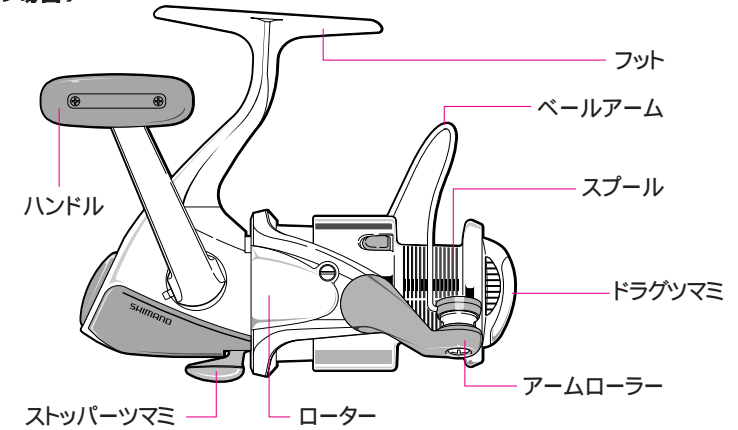


- クラッチ**……親指で下に押しとOFFになりラインが出ていく。ハンドルを回すとONになる。
- ハンドル**……これを回してラインを巻く。
- ドラグツマミ**……クラッチがONでラインが出ていかない状態でも、ドラグの締め具合の強弱を調整することで、ある一定以上の力がかかるとスプールが回ってラインが出ていく。ラインが切れるのを防止したり、ロッドが損傷するのを防ぐために調整する。
- スプール**……糸を巻く部分。キャスト時には、これが回転してラインが放出される。ハンドルを巻くと回転し、ラインを巻き取る。
- マグネットブレーキ**……バックラッシュ(キャスト時に糸がもつれてしまう現象)を防止するためのブレーキシステム。ブレーキシステムには他に遠心カブレーキ※がある。バスサイズの場合、マグネットブレーキは、0から10までの調整ができる。最初は強めに(10)、慣れるに従って弱くしていけば遠投することも可能。
※遠心カブレーキ
スプールの回転する速度に合わせてブレーキ力が変わる。回転が低いときには弱く、高いときには強くブレーキがかかる。効率よくブレーキがかかるので、慣れてくる程に飛距離が出る。中級者以上向け。マグネットブレーキは回転に関わらず、一定の力でブレーキがかかるのでキャストがしやすい。初心者向けともいえる。
- キャストコントロールツマミ(キャストコン)**……スプールの回転時にかかるブレーキを調整する。締めるとブレーキは強くなる。マグネットブレーキや遠心カブレーキなどと組み合わせて使い、ブレーキ力を微調節する。
- レベルワインダー**……スプールに巻かれているラインを、ここの穴に通して使用する。これが左右に動くことでスプールにラインが均一に巻ける。
- フット**……この部分をロッドに固定する。

■スピニングリール

軽いルアー、細いラインを使用するときに使います。扱いやすいので初心者の方でも使いやすいといえます。他の釣りで使われることも多いリールです。バスフィッシングでは2000・2500・3000サイズが最適です。

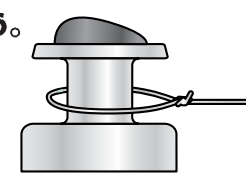
〈ナビ・エアレックスの場合〉



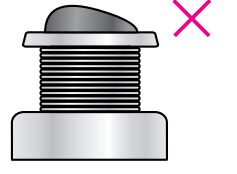
- ドラグツマミ**……この締め具合の強弱を調整することで、ある一定以上の力がかかるとスプールが回ってラインが出ていく。ラインが切れるのを防止したり、ロッドが損傷するのを防ぐために調整する。
- スプール**……ラインが収納されている。ドラグの作動時に回転する。
- ローター**……ハンドルを回すとこの部分が回ってラインが巻かれる。
- アームローラー**……ここを經由してラインがスプールに巻かれる。
- ベールアーム**……これを起こすとラインを放出でき、倒すとラインを巻き取ることができる。キャスト時には起こして使う。
- ハンドル**……これを回してラインを巻く。右にも左にも付け替えることができる。
- フット**……この部分をロッドに固定する。
- ストッパーツマミ**……OFFにすることでハンドルを逆転させることができる。ONにすると逆転止めがかかり、正転方向にしか回らない。ナビ・エアレックス等の場合、リールの後ろから見て右に倒れているときはON、左に倒れているときはOFFの状態。通常はONにして使用する。 ※アルテグラ以上の機種の場合は、リールの後方からみて左に倒れているときはON、右に倒れているときはOFFの状態。

リールにラインを巻こう。

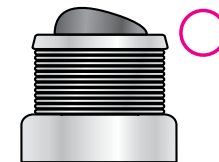
ユニット(P11参照)をつくり、スプールに掛けてラインを結ぶ。スプールの糸巻き量が多い場合には下巻きをしておく。ラインは100mも巻けば十分。



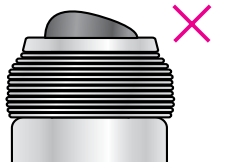
ライン量の少ない状態。このような状態になるときは必ず下巻きをして調整する。



スプールのエッジから、1円玉1枚分ぐらいの厚みで下回るのがベストな状態。



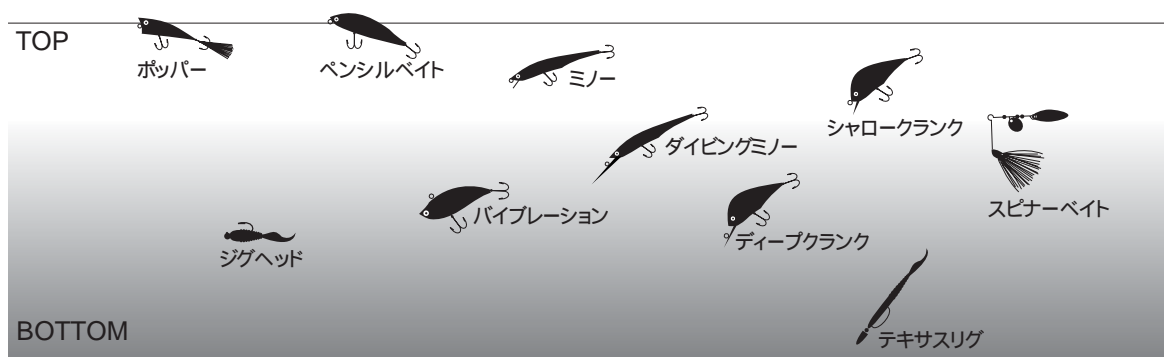
このような状態は明らかに巻きすぎ。



このイラストはすべてスピニングリールのもですが、ベイトリールでもスプールのカタチが違うだけでスプールへのラインの結び方は同じです。

見ているだけで楽しくなるバスルアーたち。

バスフィッシングに使われるルアーは、“ハードルアー”と“ソフトルアー”に大きく分けられます。フィールドや状況の変化、水深などに合わせて使い分けのため、たくさんの種類があります。



ハードルアーの種類

ハードルアーの“トップウォーター”“ミノ”“クランクベイト”“バイブレーション”などは総称して“プラグ”と呼ばれます。基本的に水深別に使い分けすることができます。スピナーベイトなどもハードルアーの一種です。

■トップウォータープラグ

トップウォーターには“ペンシルベイト”“ポッパー”などたくさんの種類が存在する。多くのものが水に浮き、水面を舞台として活躍する。



ポッパー

ペンシルベイト

■ミノ

小魚を模したルアー。前部に“リップ”と呼ばれる、プラスチックのベロのようなものが付いており巻くと潜る。この大きさや角度によって潜る水深が変わる。水に浮くタイプ(フローティング)、水中で止まるタイプ(サスペンド)、沈むタイプ(シンキング)がある。



ミノ

ダイビングミノ

■クランクベイト

丸くてぼつりとしたボディが特徴。水に浮き、前方に付いたリップにより巻くと潜る。リップの大きさの違いで潜る水深が設定され、通常、1mぐらい潜るものを“シャロークランク”、2mぐらい潜るものを“ミディアムクランク”、3m以上潜るものを“ディープクランク”と呼ぶ。



シャロークランク

ディープクランク

ミディアムクランク

■バイブレーションプラグ

リップが付いておらず、ボディに水を受けて激しく振動する。多くのものが“ラトル”と呼ばれる丸い玉を内蔵しており、動くと音がする。ラトルが入っておらず、音のしないタイプ(サイレント)もある。基本的には沈むが、浮くタイプ(フローティング)もある。



■スピナーベイト

“アーム”と呼ばれる針金状の金属の先に、“ブレード”と呼ばれる金属板が付いており、巻くとこれが光りながら回ってバスを誘う。“シングルウィロー”“タンデムウィロー”など、ブレードのタイプによって分けられる。



タンデムウィロータイプ

シングルウィロータイプ

ソフトルアーの種類

ソフトルアーは通常、“ワーム”と呼ばれています。フックやシンカーと組み合わせて“リグ”と呼ばれる仕掛けを作って使います。

■ストレートワーム

全体が真っ直ぐで、小さなテール(尾)が付いているものもある。



■スティックベイト

棒状のワームでテールなどは付かない。自重があるものが多く、ノーシンカーで多用される。



■カーリーテール

ストレートワームのボディにカーリーしたテールが付いている。このテールのことをカーリーテールと呼ぶ。



■グラブ

太めのボディに大きなカーリーテールが付いている。



■その他のワーム

小魚の泳ぎを模した“シャッドテールグラブ”や複雑な形状をしたものなど、その他にもワームは色々な種類が存在する。



エビ型ワーム

シャッドテールグラブ

ワームフックの種類と各部の名称

ワームにはフックをセットしなければ使えません。色々なリグ(P12参照)に合わせて、フックの種類を選びます。



ワームフックのサイズ

フックにはワームの長さに合わせて色々なサイズがあります。“1”とか“1/0”などと表記されています。“1”より“1/0”の方が大きく、“1/0”の方は前の数字が大きくなる(“2/0”“3/0”となる)ほどサイズも大きくなりますが、“1”の方は数字が大きくなる(“2”“3”となる)ほどサイズが小さくなります。

●ワームの長さで適合フックサイズの一例(オフセットフック使用時)

3.5inch=1 4inch=1 or 1/0 5inch=2/0 or 3/0

シンカーの種類

ワームのリグにはシンカーを使うものもあります。シンカーもリグに合わせて使い分けます。

■バレットシンカー

弾丸のカタチをしたシンカー。先が尖っているのが根がかりしにくい。中心に穴が開いており、そこにラインを通して使う中通し式のおもり。テキサスリグ(P12参照)などに使われる。



■スプリットショット

シンカーの真ん中に割れ目があり、そこにラインを挟んで使う。“ガン玉”とも呼ばれる。スプリットショットリグやダウンショットリグ(P12参照)などに使われる。



■ダウンショットシンカー

ダウンショットリグ専用のシンカー。ラインをはさみ込んで固定するタイプのものが多い。付け替えが容易。ダウンショットリグはスプリットショットを使用してもできる。



自分に合うタックルはどれ？ タックル選びの基本。

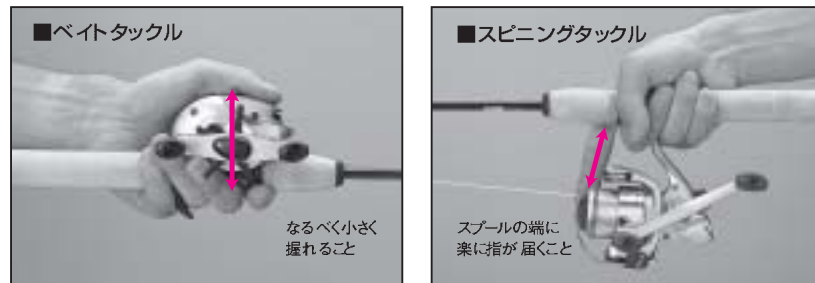
バスフィッシングは、まず片手で振り切れるタックルを使い、しっかりとしたキャストフォームを身につけることが大切です。上達のためには自分に合ったタックルを手にするのが重要。最初は自分の体格や腕力にあったものを選びましょう。

■ロッドの選び方

ロッドの長さは自分の身長ぐらいのものがベスト。それよりも長いものは最初のタックルとしては向いていません。片手で振ってみて、少し重いと感じたらもう少し短いものを選びましょう。あまり硬すぎないロッドからスタートするのがベスト。

■リールの選び方

自分に合わない大きなものを使うと、ちゃんと力が入らなかったり、指が開きすぎてキャストがうまくいかなかったりします。最初は自分の手の大きさや指の長さにあった、楽に握れるものを選びましょう。



■ラインの選び方

汎用性が高く、使いやすい"ナイロンライン"から始めましょう。思いきったキャストができるように最初は太めのラインを選択。スピニングリールなら8lb.、ベイトリールなら16lb.ぐらいがおすすめです。

上達したら…2本目以降のタックル選び。

■ロッドの選び方

ロッドは基本的に、使うルアーの重さとルアーのタイプ、そして長さで選ぶことができます。例えば、トップウォータープラグを上手く操作したいのなら"SS"テーパードロッド、ワームでボトム(底)の様子を感じ取りながら釣りたいのなら"F"のロッドといった選び方。後は使うルアーの重さによってパワーを選び、長さを選択すればよい。また、使うフィールドによって選択することもできる。例えば、より遠くへキャストしたいのなら長いロッド、障害物の多いところで釣りをするのなら硬いロッドといった感じでロッドを選択する方法。いずれにしても、目的を持ってロッドを選択することが大切。

■リールの選び方

ベイトリールの場合、サイズの大きなものの方がパワーもあり、ラインキャパシティー(糸巻き量)も多いので、太いラインを使いたいのなら大きなサイズを選ぼう。また、大きなサイズは飛距離を得やすいが、軽くて小さなルアーはキャストしにくい。軽くて小さなルアーをキャストしたいのなら小さなサイズを選ぼう。スピニングリールの場合は、まず替えスプールを手に入れる。太さの異なるラインを巻いたり、ひとつにはナイロンラインを巻き、もうひとつにはフロロカーボンを巻いたりすると、釣り場でも状況に応じてすぐに交換できて非常に便利。

■ラインの選び方

慣れてくればラインはキャストするルアーの重さに合わせて選択するという方法がある。軽いルアーをキャストするのなら、細いラインの方が良く飛ぶ。また、フィールドに合わせて選択することも大切。障害物の多いところでは思い切って太いラインを使うこと。ナイロンとフロロカーボンは、ラインの特性を考えて使い分ける。フロロカーボンは沈み、感度も良いのでワームなどのボトムの釣りに使われることが多い。ナイロンは汎用性が高い。

さあ、タックルをセットしてみよう。

バスフィッシングをする前に、まずは道具を準備しなければなりません。フィールド(釣り場)で行うことなので、とまどうことのないようにしっかりと覚えておきましょう。

ガイドにラインを通す。

ロッドにリールをセットしたら、次はラインをガイドに通す。スピニングタックルの場合、スピニングリールのベールを起こしてからラインを引き出し、一番下のガイドから順番に通していく。上まで通したらラインを手元まで持ってきて、リールのベールを起こす。ベイトタックルの場合は、キャストコントロールツマミを軽く締めてクラッチをOFFにして、レベルワインダーの穴にラインを通してからガイドに通す。一番上のガイドまで通したら、ラインを手元まで持ってきて、ハンドルを回してクラッチをONにする。

■クセがついてラインが通しにくい!!

ベイトリールに巻いたラインにクセがついて丸くなっているときには、クラッチを切ってラインを十分に引き出し、そのラインを引っ張って糸グセをとり、真っ直ぐにならなかった部分を切ります。それから、真っ直ぐな部分からラインを通すと通しやすくなります。

■あっ!! ラインを通し忘れた!

スピニングリールのベールを起こさずに、ガイドにラインを通してしまおうということは比較的良くあること。でも、そんなときでも焦らなくても大丈夫。一度、スプールを外し、ベールを起こした状態にして再度スプールを装着。ベールを起こせば問題は解決。せっかく結んだルアーを切って、最初からやり直す必要はありません。

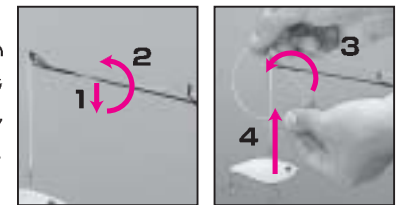
ルアーのセットの仕方

プラグの場合、ルアーの先のラインを結ぶアイの部分に、スプリットリングと呼ばれる、小さな丸い輪が付いているものは、そこにラインを結びます。付いていないものはスナップを使い、そこにラインを結び、ルアーのアイに通します。スナップを使うとルアーの交換も簡単にできます。ワームフックやスピナーベイトの場合には直接ラインを結びます。また、ポッパーやペンシルベイトなど直接アイにラインを結ぶプラグもあります。ラインの結び方は、11ページを参照してください。



■ラインがねじれて通っている!!

ラインを通してルアーを付けて、ふと見るとガイドとガイドの間でラインがねじれてしまっている…こんな時でも、そのねじれている部分がティップに近ければ、ルアーを外してガイドからラインを抜く必要はありません。1. ねじれ部分を引っぱり輪をつくる。2. その輪を裏返すようにしてティップの方へ。3. 輪の中にティップをくぐらせる。4. 最後についているルアーをくぐらせる。こうすることで簡単に元に戻ります。



ドラッグ調整の方法

ドラッグとは、その強弱を調整することによって急激な魚の引きに対して、スプールが空転してラインブレイクを防ぐ機構です。スピニングリールはバスがかかっているからの調整がやりやすいので、あらかじめ設定しておきましょう。

■スピニングリールのドラッグ調整の方法

ストッパーをONにして、ラインの先を固定し、ロッドをあおる。ドラッグ力は右に回すと強くなり、左に回すと弱くなります。

通常はラインブレイクを起こす寸前で、スプールが空転してラインが出ていくように調節します。

※ベイトリールも同様に設定してください。



バスフィッシングの基本中の基本、ラインの結び方を覚えよう。

ラインの結び方は、バスフィッシングにとって大切な基本中の基本です。いくつかの種類がありますが、まずはひとつだけしっかりと覚えておきましょう。

■ユニノット

おすすめ!!

1.フックやスプリットリング・スナップにラインを通して、端を折り返して輪を作る。



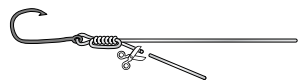
2.輪の中にラインの端を通して、3~5回巻きつける。



3.ラインの端を引っ張り、軽く締める。



4.ラインを熱で弱らせないために唾などで軽くしめらせてから、ゆっくりと引き、強く締めて、余分なラインを2mm程度残してカットする。



■ラインとラインを結ぶ場合のユニノット(電車結び)

1.結びたいライン同士を重ね、ユニノットと同じ要領で折り返して輪を作る。



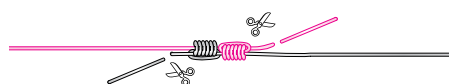
2.ユニノット同様、輪の中にラインの端を通して、3~5回巻きつけて、軽く締める。



3.もう一方のラインも同じようにユニノットで軽く結ぶ。



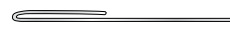
4.軽くしめらせてからラインの両端を左右にゆっくりと引っ張り、結び目同士がくっついたなら、余ったラインを切る。



■パロマーノット

簡単!!

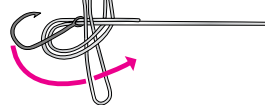
1.先端を5~10cmぐらいを折り返す。



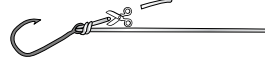
2.フックやスプリットリング・スナップに折り返した先端を通す。



3.結び目を締めずに、1回結ぶ。先端の輪の中にフック(リアー・スナップ等)をくぐらせる。



4.結び目を締めて、余分なラインを2mm程度残してカットする。



ラインの種類

バスフィッシングに使用されるラインは3種類あります。

■ナイロンライン

最も一般的なラインで使いやすい。水に沈みにくく、伸びがある。



■フロロカーボンライン

水に沈む。伸びが少ないので感度がよいとされている。



■PEライン

細い糸を編んで作られている。伸びはほとんどない。

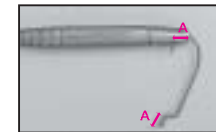
ワームにフックをセットしてみよう。

ワームのフックはリグを作るときに自分でセットします。ワームの釣りはこちらからスタートするので、とても重要です。フックのタイプによってワームの仕方が違います。

オフセットフックのセットの仕方



1.ワームを真っ直ぐにして、フックと並べてフックを刺す位置の見当をつける。このときにワームキーパーの長さを測っておく。



2.ワームの頭部の中心からフックを真っ直ぐに刺し、1.で測ったワームキーパーの長さ(Aの長さ)と同じ位置からフックポイントを出す。



3.フックを途中まで抜き、180度ひねってワームキーパーにワームがしっかりとセットされるまで抜く。



4.フックを抜いたらワームが真っ直ぐになるように、ワームの上にフックを置いて、フックを刺す位置と抜く位置の見当をつける。



5.見当をつけた位置にフックを刺したら完成。フックポイントを抜いて、最後にフックポイントをワーム本体に軽く刺してやる方法もある。

マスバリのセットの仕方

マスバリはワームの頭部や後部の中心に下からセットします。これは"チョン掛け"とも呼ばれます。



ワームのリグの種類

ワームは様々なリグを作って使用されます。リグによって、使われるワームやフックのタイプ、シンカーなどの種類が変わります。

■テキサスリグ

ワームのリグの基本と言われている。根がかりがしにくい。バレットシンカーにオフセットフックを使う。ほとんどのワームに向いている。



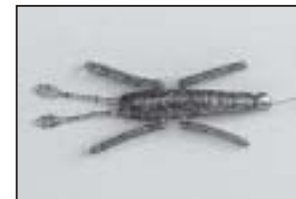
■ノーシンカーリグ

シンカーを使わないリグ。ゆっくりと沈めたいときや表層を釣りたいときに使われる。フックはオフセットフックを使う。スティックベイトやグラブなどがよく使われる。



■ジグヘッドリグ

ジグヘッドを使ったリグ。ほとんどのワームを使用することができる。



■ダウンショットリグ

近距離で決まったスポットにバスがいる時に使う。マスバリを使うことが多いが、オフセットフックも使われる。シンカーは専用シンカーかスプリットショットを使い、ストレートワームやコエビチャンなどが多く使われる。



■スプリットショットリグ

その名の通り、シンカーにはスプリットショットを使う。フックは根がかりの多いところではオフセットフックを使い、そうでないところならマスバリを使う。ストレートワームやグラブ、コエビチャンなどが多く使われる。



バスフィッシングはキャストすることから始まる。

バスのいるところにルアーを届けなければバスは釣れません。そういった意味でもキャストは大切なことなのです。まずは“オーバーヘッドキャスト”を覚えましょう。

まずはブレーキを調整する。

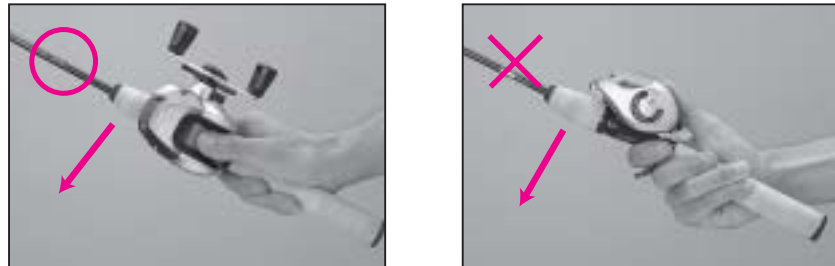
ベイトタックルの場合、キャストする前にリールのブレーキを調整します。ブレーキの調整はマグネットブレーキ、またはSVS(可変遠心力ブレーキ)を調整してから、キャストコントロールツマミで微調整を行います。

1. マグネットブレーキの場合、最も強いブレーキ力に設定する。SVSなら6個ともONにする。
2. ルアーを付けて、クラッチを押してフリーの状態にする。
3. ルアーが落ちていかないところまで、キャストコントロールツマミを締める。
4. そこから徐々に緩めて、ロッドをチョンチョンと振って、振った分だけ落ちていくようになればOK。



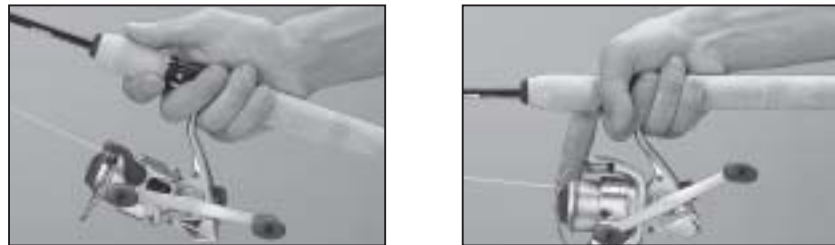
キャスト時のベイトリールの握り方

ベイトタックルの場合、手首のスナップを利かし、真っ直ぐに飛ばす。最大のポイントはリールの握り方。正しい握り方は、リールを上にして握るのではなく、手の甲を上にして握る。右巻きのリールなら、ハンドルが上になる。スナップを効かせるためにキャスト時は最初から最後まで、手首はこの向きとなる。



スピニングリールの握り方

中指と薬指の間でリールのフットを挟むようにして握る。この状態で人差し指がスプールに届くかどうかを確認する。届かなければ薬指と小指の間にリールのフットを挟むようにして握る。それでも届かない場合には、リールのサイズを小さくする。

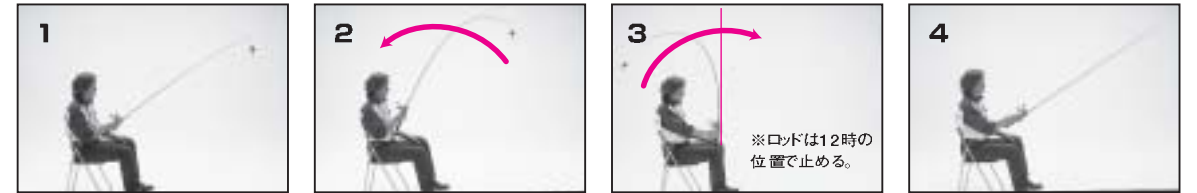


キャストの基本。オーバーヘッドキャスト。

オーバーヘッドキャストのコツは、真っ直ぐ振り上げて、真っ直ぐおろすこと。すべてのキャストの基本となるので、しっかりと覚えておきましょう。

■ベイトリールのオーバーヘッドキャスト

1. リールのクラッチを押し、親指でスプールを軽く押さえる。前を向いて構え、目線は投げる目標に置く。手の甲が上を向いていることを確認。ルアーのタラシは10cmぐらい。必ず自分の後ろとロッドを持つ手の側に、人がいないことを確認する。
2. 手首のスナップと肘を利かせて、12時ぐらいの位置で止めるつもりで真上に振り上げる。ロッドが曲がるのを感じるぐらいシャープに振れるようになるのが目標だが、最初からあまり無理をする必要はない。前へ強く振るのではなく、後ろへ強く振るような感じ。
3. 後ろで力がたまりきった瞬間、手首を前に返す。その瞬間にスプールを押さえた指をはなす。この状態を“リリース”と呼ぶ。最初は、なるべく高く投げるつもりでリリースを行うと上手いく。
4. ルアーが飛んだら、飛んでいくルアーを視界に入れながら、スプールでラインがふくらんだ時には、スプール回転を制御するために親指で軽くスプールに触れる。着水と同時に回転を止めるためにスプールを親指で押さえる。この動作を“サミング”と呼ぶ。



上の写真では、ロッドの反発力を生かせば、前後の無駄な動きは必要ないことを示すために、イスに座ったままキャストしています。

■スピニングリールのキャストの方法

スピニングリールの場合、キャストの前に人差し指にラインを掛けて、ベールアームを起す。キャストの動作自体はベイトリールの時と同じ。リリースのタイミングもベイトリールと同じ。ルアーの着水と同時にスピールのエッジ(端)に軽く触れて、ラインをたるませないようにする。この動作を“フェザーリング”と呼ぶ。



パーミングの仕方

ベイトタックルはキャストの後、リトリブ(リールを巻くこと)するとき、リールを掌で包み込むようにして握る。このとき、大きな力がかかっても対応できるように、ロッドのトリガーは薬指と小指の間に挟み込むようにする。



もしもバックラッシュしたら？

上手くサミングができなかったときなどに、スプールでラインが絡まってしまうことがよくあります。この状態を“バックラッシュ”と呼びます。ラインが出る速度よりもスピールの回転の方が早くなったときに起こり、このライントラブルを防ぐためにブレーキ調整をしたり、サミングをしたりします。もしも、バックラッシュを起こしても直す方法があります。まずクラッチをOFFにして、そのままラインを引っ張り出していきます。ラインが引っかかって止まるところにきたら、その部分に親指を当て、2~3回強引にハンドルを回して巻き込みます。そして再びクラッチをOFFにして、ラインを引っ張り出します。このときに引っ張り出せなかったり、再び引っかかるのであれば、また同じようにします。これを繰り返すことで簡単に直すことができます。



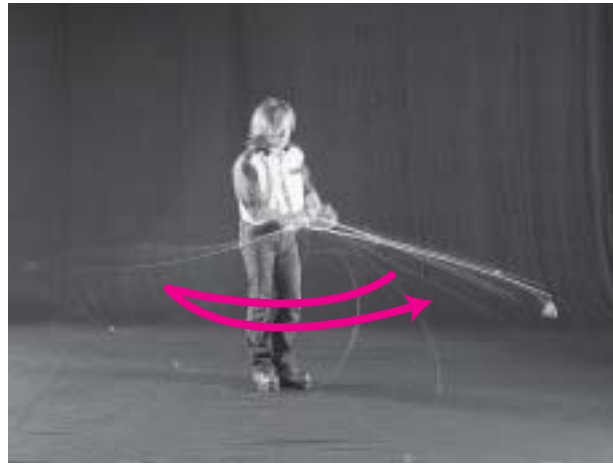
親指でスプールを強く押さえ、ハンドルを強引に巻く。

基本をマスターしたら、こんなキャストもできる?!

オーバーヘッドキャストがマスターできたら他のキャストはその応用にすぎません。これでオーバーヘッドキャストは完璧、と思えたら他のキャストにもチャレンジしてみましょう。

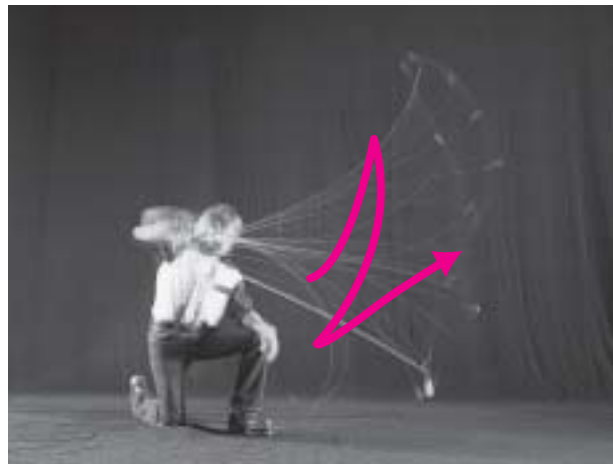
■サイドハンドキャスト

オーバーヘッドキャストを右あるいは左に90度傾ければサイドハンドキャスト。真っ直ぐに正面を向き、ロッドを水平に構える。手首のスナップを利かせてコンパクトに、真横よりは気持ち後ろに振る。ロッドの反発力を感じたら、最初に構えた位置に戻すような感じで、素早く前へ戻してリリースする。腕が真っ直ぐに直線上を移動するような感じで振っていくと上手くいく。バックハンドの場合、右手でキャストするときには左手を、左手でキャストするときには右手をそえて行くとやりやすい。



■フリップキャスト

まずはロッドを水平に構える。ロッドをいったん真っ直ぐ上に振り上げて、ロッドの反発力を十分に生かして下に振る。再びロッドが上へ戻ろうとする反発力を利用してリリースする。フリップキャストはオーバーヘッドキャストの裏返し。つまり、下に振り下ろしたときがバックスイング。上に振り上げてできたロッドの反発力を下向きの反発力に変え、その反発力を生かしてキャストする。ロッドの動きは、上から下、そして上という順番になる。タラシがない状態でキャストするのがポイント。



■スキッピング

サイドハンドキャストより、気持ちロッドティップを下げて、手首のスナップを利かせてコンパクトに後ろに振る。後はサイドハンドキャストと同じ。リリースの時の目線はスキップさせる水面ではなく、その先の目標地点に置く。ルアーが1回目のバウンドをしたら徐々にロッドティップを上げていく。スキッピングのコツはブレーキを強く締めること。マグネットブレーキなら最強の10、SVSなら6個ともONにする。その上で、キャストコントロールツマミもラインが出ていかないくらい強く締めること。

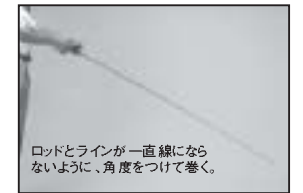


バイト、そしてフッキング。これでバスを手にすることができる。

“バイト”とはバスのあたりのこと。ルアーをキャストし、そしてバイトがあったらアワせる。このアワせる動作のことを“フッキング”と呼びます。

こうすればバイトは取りやすい。

プラグなどの巻いてくるようなルアーの時には、ロッドを横にするとバイトが取りやすくなります。巻くときにロッドとラインが一直線になっているとバイトは取りづらくなります。また、ワームの場合は、ロッドを45度ぐらいに立てて操作するとバイトを感じ取りやすいでしょう。



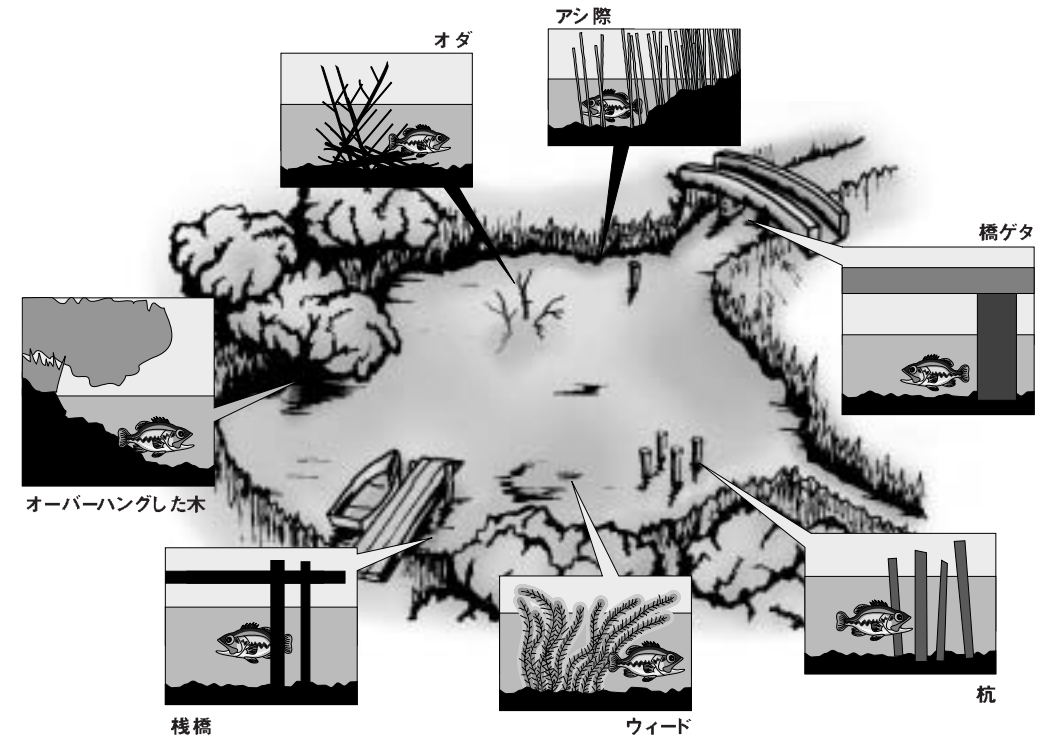
バイトを感じたらしっかりとフッキングしよう。

バイトを感じたら、余ったラインを素早く巻き取って、ロッドをいきおいよくあげる。これがフッキングです。ロッドを立てて操作しているときは、ラインを巻き取りながらロッドを倒した上で、胸に引きつける感じでロッドを鋭く立てます。ロッドを横にして巻いているときは、同様に腰を鋭くひねる感じでロッドを後ろにあおります。



バスはここにいる!!

バスは障害物や地形の変化などが大好き。具体的に言うと、立ち木や岩、倒木、ウィードなどの自然のものから、杭や橋脚、栈橋などの人工建造物、流れ込みや岬、深さが変わるといった地形の変化などがバスのいるところ。特に足下の岸際は有力なポイントになるので、水際には静かに近づきましょう。



持っている便利!!お役立ちアクセサリ&ウェア集。

あんな小物、こんな小物、あったら便利ないろんな小物たち。そして、必ず持っていた方がよいもの。ここではそんなアクセサリやウェアを紹介します。

雨が降ればバスはもっと釣れる?!

出かけるときは晴れていても、フィールドでは雨といったことは良くあること。また、梅雨時など、雨が降る日はバスが良く釣れるのです。快適に釣りをするためにもレインウェアは持っておきましょう。



■S.S.C.Sレインスーツ RA-201X
¥31,000(XO ¥33,000)
(サイズ)WM・M・L・O・XO
(カラー)アイホワイト・マッドオレンジ

フローティングベストも大切なバス用品。

ボートで釣りを始めたら、必ずフローティングベストを着用しましょう。これは命を守るためには当たり前のこと。フローターやウエーディング時にも着用するようにしましょう。



■S.S.C.Sコンビネーション
フローティングベスト
VE-272X ¥16,500
(サイズ)フリー
(カラー)ブラック・マッドオレンジ

季節を問わずバスアングラーにキャップは必携。

キャップは太陽光線からだけでなく、他人のミスキャストからも頭を守ってくれます。フィールドに着いたらキャップをかぶりましょう。



■SHBC II S.S.C.Sコーディネートキャップ
CA-201S ¥4,000
(サイズ)M・L
(カラー)ブラック・オフホワイト・マッドレッド

岸釣りアングラー必携のウエストバッグ。

両手が使えるウエストバッグは岸釣りのアングラーには、まさに必携です。ルアーやフック、シンカーなど必要なものを入れておくと機動力もアップ。非常に便利です。



■S.S.C.S ウエストパネルバッグ
WB-212S ¥6,000
(サイズ)27×12×22cm
(カラー)ブラック・マッドレッド

■S.S.C.S ウエストルアーバッグ
WB-211S ¥3,700
(サイズ)12×28×18cm
(カラー)ブラック・マッドレッド

持ち帰るための フィッシャーメンズデューティー。

ラインくずや切れたワームなどを持ち帰るための収納袋。フィールドに残していいのは足跡だけです。

■フィッシャーメンズデューティー
BA-214S ¥1,000
(サイズ)6×9×12cm
(カラー)ブラック・マッドレッド



必ず1本は持っていたい。機能満載のフィッシングプライヤー。

バスにかかったフックをはずすときに必要。ラインをカットしたり、スプリットリングをはずしたりと、多彩に使えるので1本は必ず持っておきましょう。



■スコープオン・シースプライヤーXT
CT-273S ¥4,800
(サイズ)全長20cm
(カラー)ホワイト

■スコープオン・シースプライヤー
CT-2726 ¥2,450
(サイズ)全長13cm
(カラー)ワインレッド・ホワイト

バスフィッシングがもっと楽しく、快適になる小物たち。

ラインを素早くカットする。



■スコープオン・ラインカッター
CT-2416 ¥850
(サイズ)全長4cm
(カラー)シルバー

ラインカッターとセットで使えばさらに便利。



■スコープオン・ピンオンリール
PT-2118 ¥2,500
(カラー)ワインレッド



■ピンオンリール ST
PT-2116 ¥1,000
(カラー)シルバー

釣り上げたバスの記録写真に最適。



■スコープオン・テープメジャー
MS-221C ¥2,400
(カラー)ホワイト
※150cmまで測定可

夏以外も必携。 水面のキラキラを抑える偏光グラス。



■ネクススフィッシンググラス
HG-103N ¥4,200
(サイズ)フリー



■グラスストラップ
BE-2118 ¥1,100
(サイズ)40cm
(カラー)グレー



■キャップストラップ
BE-2018 ¥1,100
(サイズ)21cm
(カラー)シルバー

キャスト練習には 欠かせないラバーシンカー。



■ラバーシンカー
RS-201S ¥980(3個入り)
(サイズ)7g・10g・18g
(カラー)オレンジ

500mlのペットボトルを便利に収容。雨や水しぶきから携帯電話を守る。



■ハンディホンポーチ
PC-211S ¥1,200
(サイズ)9.5×19mm
(カラー)クリアー

■S.S.C.S ボトルキーパー
PC-211X ¥1,100
(サイズ)7.5×8×17cm
(カラー)ブラック・マッドレッド



※使用例

ロッドを束ねて保護する。



■スコープオン・ロッドベルト
BE-2128
M2(2本入り)¥1,200 L2(2本入り)¥1,400
M1LL1(M, LL各1本入り)¥1,600
(サイズ)M(35×300mm)L(50×330mm)
LL(70×360mm)
(カラー)レッド・ブラック

リールメンテナンスの必需品。

■リールメンテンスプレー
SP-003H ¥1,700
オイルスプレーと
グリススプレーのセット
(容量)各60ml



どこでもフックを研ぐことができる 小型電動フックシャープナー。



■スコープオン・フックシャープナー
HS-211C ¥2,400
(サイズ)107×27×15mm
(カラー)ブラック



簡単に素早くライン交換ができる。



■ラインリムーバー
LR-011X ¥2,200
(サイズ)110×35×20mm
(カラー)ブラック



■表記したすべての価格に消費税は含まれておりません。

おすすめタックルガイド。

手軽に、とにかくまずは始めてみたい。

バスライズ XT1581-2 ¥5,000
バスライズ ¥4,480

バスライズ XT2581-2 ¥5,450
エアレックス 2500 ¥6,300

バスワン XT1581-1 ¥9,700
バスワン XT ¥7,500

バスワン XT2581-2 ¥7,700
ナビ 2500 ¥8,500

気軽に、でもある程度本格的に始めたい。

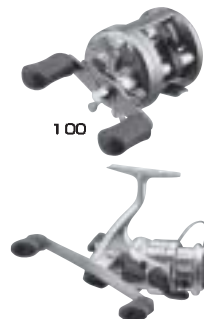
アクシス 1581F-2 ¥14,000
アクシス 100/101 ¥18,500

アクシス 2601FF-2 ¥14,500
アルテグラ 2500SDH ¥11,200

最初から長く使えるタックルで本格的に始めたい。

スコープオン 1581R ¥27,000
スコープオン 1000/1001 ¥22,000

スコープオン 2581F-2 ¥26,000
バイオマスター 2500MgS ¥19,500



■表記したすべての価格に消費税は含まれておりません。

Q&A

スピニングタックル、ベイトタックル、最初を買うのはどちらが良いのですか？

基本的にはスピニングタックルが扱いやすいので、初心者の方にはこちらがおすすめです。しかし、ベイトタックルも慣れてしまえば問題はないので、どうしても最初からベイトタックルが欲しいという方なら、それもまたひとつの方法です。ベイトタックルの場合は、SVSや4×4SVS、マグネットブレーキなど、ブレーキ性能の良いベイトリールを選択するのがポイントです。基本的にバスフィッシングでは、ベイトタックルとスピニングタックルを使い分けて釣ります。もしも、どちらか一方のタックルしか使わないとしたら、それはバスフィッシングの楽しみを半分しか知らないのと同じことです。最初買ったタックルに慣れたら、それとは違うタックルをできるだけ早くそろえたいものです。

リールは右巻き、左巻きのどちらが良いのですか？

基本的にバスフィッシングでは、右利きの場合、ベイトリールは右手で巻き、スピニングリールは左手で巻きます。これはベイトリールで使うルアーの多くが、重く、抵抗も大きいので利き腕で巻いた方が楽に巻けるからです。また、巻き続けることでアクションするルアーを使うことが多いのも理由のひとつです。これに対してスピニングリールは、重くて抵抗の大きなルアーを使うことがあまりないので、巻く方の手にパワーを必要としません。それよりも、ロッド操作でアクションを付けるルアーを使うことの方が多く、より繊細な操作が可能な利き腕にロッドを持った方がメリットも大きいので、結果として左手でリールを巻くのです。ただ、右利きの方がすべてのルアーの操作に利き腕の繊細さを生かしたいと考えれば、ベイトリールも左手で巻くという考え方もあります。もちろんスピニングリールの場合でも、巻くパワーを重視して右手で巻くといった考え方もあります。つまり、どちらが良いというものではなく、アングラーの考え次第なのです。いずれにしても、大切なのは自由な発想で選ぶということなのです。

ルアーを底まで落とすにはどうしたら良いのですか？ また、底に着いたのが分からないのですが？

ルアーを底まで落とすには、キャストした後、スピニングリールならベールを返さずに、ベイトリールならクラッチをONにせず、ラインをフリー状態で出したままにしておきます。底に着くとラインの放出が止まり、ラインがたるみます。底に着いたことが分からない場合には、ルアーもしくはシンカーのウエイト(重さ)を重いものにしてやると分かりやすくなります。

ラインはどのくらいで交換すれば良いのですか？

ラインの表面が白っぽくなってきたら交換の目安です。だいたいを目安としては3回ぐらいの使用が交換の目安です。しかし、バスフィッシングはキャストを繰り返す釣りなので、ラインにかかる負担は相当なもの…。理想を言えば1回使えば交換です。特に細いラインの場合、ラインが傷ついたり、劣化したりしているとラインブレイク(ラインが切れること)して、バスを逃がしたり、ルアーを飛ばしてなくなってしまうことがあります。そういった意味で、ラインの交換はバスフィッシングの基本ともいえることなのです。

釣行後の道具の手入れはどうしたら良いのですか？

ロッドは濡れた布で全体を拭き取り、汚れを落とします。特にガイドのリングの中を良く拭きます。ここに汚れが付着したままだと、ラインに傷がつき、ラインブレイクなどのトラブルの元となります。リールは固く絞った濡れた布で全体の汚れをふいた後、付属のオイルを注油します。注油する場所は取扱説明書に記載しています。ルアーは使用した後、そのままにしておくとながら錆びたりします。使用したルアーは一度水洗いして汚れを落とし、良く乾燥させてから収納しましょう。

バスフィッシングの用語集

本文中には登場しなかった、バスフィッシングで良く使われる用語を集めてみました。参考にしてください。

■イレギュラーアクション

イレギュラーとは「不規則な」とか「変則的」という意味。ルアーにつける不規則な動きのこと。

■インレット

流れ込みのこと。湖沼や池に、川などの水が流れ込んでいる場所。逆に流れ出す場所をアウトレットという。

■ウィード

水中に生える藻のこと。具体的には、キンギョモ、カナダモ、クロモなど。酸素を多く供給するので、バスにとって居心地の良いところ。

■ウェーダー

膝丈以上ある長靴のこと。腰までのものをズボン型(ウエストハイ)、胸まであるものをチェストハイと呼ぶ。

■ウエイト

重さのこと。バスフィッシングではルアーや魚の重さをオンスやポンドで表示することが多い。ラインでウエイトとは強さのこと。ルアーの中に入っているおもりもウエイトと呼ぶ。

■オーバーハング

樹木などが水面におおいかぶさるようになって状態。陰になっている部分はバスフィッシングの好ポイント。特に夏に良い。

■カケアガリ

水中にある傾斜面のこと。傾斜の角度は色々だが、岸から見ると徐々に深くなっている。この斜面にバスがついていることが多い。

■カバ

バスが身を隠すことができる障害物。主に水面上に出ている水草のことをいう。

■サイトフィッシング

魚を目で確認して、見ながら釣ること。この釣りのときには偏光グラスは必需品。

■シーズンパターン

季節によるバスの行動の変化に合わせたバスの釣り方。これに合わせてルアーやリグを変化させていく。

■シェード

陰のこと。樹木や蓮などの水生植物、橋や桟橋などの人工建造物の陰の部分がこれにあたる。夏のバスフィッシングの好ポイントになる。

■シェイクング

ロッドを細かく揺すってルアーにアクションをつけること。ワームでの釣りによく使われる。

■ジャーク

ロッドを大きくあおってルアーにアクションをつけること。不規則な動きを与えることができる。ミノーに使うことが多く、ミノーはジャークベイトとも呼ばれる。

■シャロー

浅場、表層のこと。普通は水深2mくらいまでの所。岸釣りで見えるポイントのほとんどがシャロー。

■ショートバイト

低活性時のくわえた瞬間に吐き出すような、ほんの瞬のあたり。

■ショア

海、川、湖沼の岸のこと。ショアフィッシングとは岸釣りのこと。

■シンキングブラグ

水に沈むブラグのこと。バイブレーション、ミノーなどに多い。

■スクール

バスの群のこと。小さなバスは同じサイズのバスと群れて行動することが多い。群の中のバスをスクールバスと呼ぶ。

■ストラクチャー

湖底などの、水中の地形の変化のこと。バスフィッシングのポイントのひとつ。バスのつく変化の総称として使われることも多い。

■スポーニング

産卵、もしくはその状態のこと。春のバスは基本的に、このスポーニングを中心として行動している。スポーニングベッドと呼ばれる産卵床をオスが作って、そこに卵を産む。

■スレ

バスがルアーにおびえる、もしくは慣れるなどしてルアーになかなか反応しない状態のこと。

■スレ

バスの口以外の所にフックがかかること。スレがかり。

■タイト

バスがストラクチャーにぴったりと張りついていること。もしくはストラクチャーのギリギリの所のこと。前者は「バスがタイトになっている」、後者は「タイトに攻める」などと使われる。

■ディープ

だいたい水深3m以上の深い場所。

■テンション

ラインをピンと張った状態のこと。ラインテンションともいう。

■トゥイッチング

ロッドティップを細かく振ってルアーにアクションをつけること。ミノーに多く用いられる。

■バンクフィッシング

岸釣りのこと。「陸っぱり」とか「ショアフィッシング」とも呼ばれる。

■根ガカリ

水中の障害物や底、岩などにルアーが引っかかって取れない状態。

■バーサタイル

「多才な」とか「多目的に使用できる」という意味。いろいろと使えるタックルのこと。

■ヒンスポット

バスの着いているごく狭い場所のこと。

■フィーディング

バスが捕食すること。捕食する場所のことをフィーディングエリアという。

■フィッシングプレッシャー

多くの釣り人に釣られてバスが怯えて警戒心を増している状態。一般に人が多くて釣れないときに用いられる言葉。「フィッシングプレッシャーが高い」という風に使われる。

■フォーリング

ルアーを水中に落とし込むこと。ラインにテンションかけて落とし込むことを「カーブフォール」、ラインを張らずに落とし込むことを「フリーフォール」と呼ぶ。

■ブッシュ

岸辺の藪や立ち木の密集しているところのこと。バスフィッシングの好ポイントのひとつ。

■フラット

平らな場所。底に障害物がないような場所のこと。

■ブレイク

急に深くなっているところ。その境目をブレイクラインと呼ぶ。

■プレゼンテーション

ルアーをバスのいそうな所へキャストすること。

■フロートイング

浮くこと。浮くルアーのことをフロートイングルアーと呼ぶ。

■フロートチューブ(フローター)

バスを釣るための大きな浮き輪のこと。これで池などに浮かんでバスフィッシングを楽しむ。岸釣りからのステップアップにもおすすめ。

■ベイトフィッシュ

バスが捕食する魚のこと。

■ベジテーション

水生植物の総称。水面に浮く植物のことを指すことが多い。

■ヘビーカーバー

水生植物などが水面が見えないほど繁殖している場所。バスフィッシングでは攻めにくいポイントのひとつ。

■ボーズ

水中で動かしていたルアーを止めて動かさない状態。「ボーズをとる」という風に用いられる。

■ボーズ

一匹も釣れないこと。オデコ、アブレなどともいう。

■ボイル

バスが小魚を捕食しようとして、小魚が逃げまどい、水面が「シヤバシヤ」となっている様子。沸騰しているかのように見えるからこう呼ばれる。

■ボトム

水底のこと。底の地質のことをボトムマテリアルと呼ぶ。

■ボンブリトリープ

ロッドでルアーを引き、そして止めるアクションのこと。サスペンドルアーに多く用いられる。

■マッチ・ザ・ベイト

その時、その場所でバスが捕食しているエサにルアーのサイズ等を合わせることに。

■メソッド

方法という意味。釣り場の状況に合わせて、どんな方法で釣るかということ。

■ライズ

魚が水面が上がってきて跳ねること。

■ラインスラック

キャストの後などのラインがたるんだ状態のこと。

■ランカー

大きなバスのこと。一般的には50cm以上のバスのことをいう。

■ランディング

バスを釣り上げること。キャッチと同義。魚を入れる網のことをランディングネットという。

■リリース

養のこと。

■リアクションバイト

バスが食性からではなく、思わずルアーに食いついてしまうこと。

■リザーバー

川を人工的にせき止めて作った湖のこと。自然な湖のことをナチュラルレイクと呼ぶ。

■リフト&フォール

底に着いたルアーを、ロッドをあおって浮かび上げさせ、そしてまた落とすことを繰り返すルアーアクションのこと。

■ローテーション

ポイントにより合ったルアーを見つけたために、ルアーを次々と変えること。ルアーローテーションともいう。

■ワンド

池や湖沼、河川などで入り江状になった所の奥。

気持ちよくバスフィッシングをするために…

普段の生活の中にもルールやマナーがあるように、バスフィッシングをするときにもルールやマナーがあります。といっても難しいことではありません。みんな当たり前のことです。改めて確認して、気持ちよくバスフィッシングを楽しみましょう。

駐車位置、少しの気づかいで、みんな気持ちよく。

駐車禁止の所はもちろんのこと、車を駐車することができるような場所でも、駐車するときには細心の注意を払いましょう。そこに車を駐車することで車の往来をとめてしまったり、漁港や農道などでは、そこで働く人に迷惑をかけてしまうことがあります。自分では気づかなくても、そうなることもあるのです。車だけではなく、バイクや自転車なども、とめるときには人の迷惑になっていないかどうか、よく考えてからとめるようにしましょう。少しの気づかいで、みんなが気持ちよく過ごせることもあるのです。

バスフィッシングを愛するもの同士。先行者がいるときには挨拶を。

釣りをする人は、みんな仲間です。フィールドに着いて、先行者がいるときには挨拶をしましょう。バスフィッシングをしている人だけでなく、他の釣りをしている人でも同じです。そして、そこで釣りを始めるときには、「ここ いいですか?」と確認を取って、邪魔にならない程度の距離を空けてから釣りを始めましょう。自分から一声かけることで、その日、一日を気分よく過ごすことができるのです。せっかくのバスフィッシング。気持ちよく釣りたいものです。

楽しむためなのだから…。立入禁止区域での釣りはやめましょう。

立入禁止のところで大きな魚を釣ったとしても、あなたの気分は良くないはず。魚を釣ることだけが目的ではないはず。楽しむためのバスフィッシング。だからこそ気分良く釣りたいもの。フェンスや柵を乗り越えて釣りをしたり、当たり前のことですが、立入禁止の札や釣り禁止の札のあるところで、釣りをするのはやめましょう。漁港などで釣りをする場合には、そこにある船も立入禁止区域と同じです。

最後は持ち帰ること。楽しかった分だけの感謝をフィールドに返ししましょう。

今あなたが釣りをしている、そのフィールドは自分たちが楽しむ場所なのです。きれいなフィールドで釣りをする方が、あなたも気分がよいはず。自分のゴミはもちろんのこと、そこに落ちているゴミも、できる範囲で拾って帰りましょう。そうすれば、次にそのフィールドを訪れたときには、もっと気持ちよく楽しめるのです。フィールドがあつてこそそのバスフィッシング。フィールドへの感謝を感じているあなただからこそ、そこにゴミを残すことはないはず。

【長さ】						【重さ】					
1インチ(in)は、約2.54cm						1オンス(oz)は、約28.35g					
1フィート(ft)は、約30.5cm						1ポンド(lb)は、約453.6g					
1フィート=12インチ						1ポンド=16オンス					
in	1	2	3	4	5	oz	1/32	1/16	3/16	1/4	5/16
cm	2.5	5.1	7.6	10.2	12.7	g	0.9	1.8	5.3	7	8.9
in	6	7	8	9	10	oz	3/8	1/2	5/8	3/4	1
cm	15.2	17.8	20.3	22.9	25.4	g	10.6	14.2	17.7	21.3	28.4
ft	1	2	3	4	5	lb	1	2	3	4	5
m	0.3	0.6	0.9	1.2	1.5	kg	0.45	0.9	1.4	1.8	2.3
ft	6	7	8	9	10	lb	6	7	8	9	10
m	1.8	2.1	2.4	2.7	3.0	kg	2.7	3.2	3.6	4.1	4.5

換算したすべての数値は、おおよその値です。

2001年9月30日発行